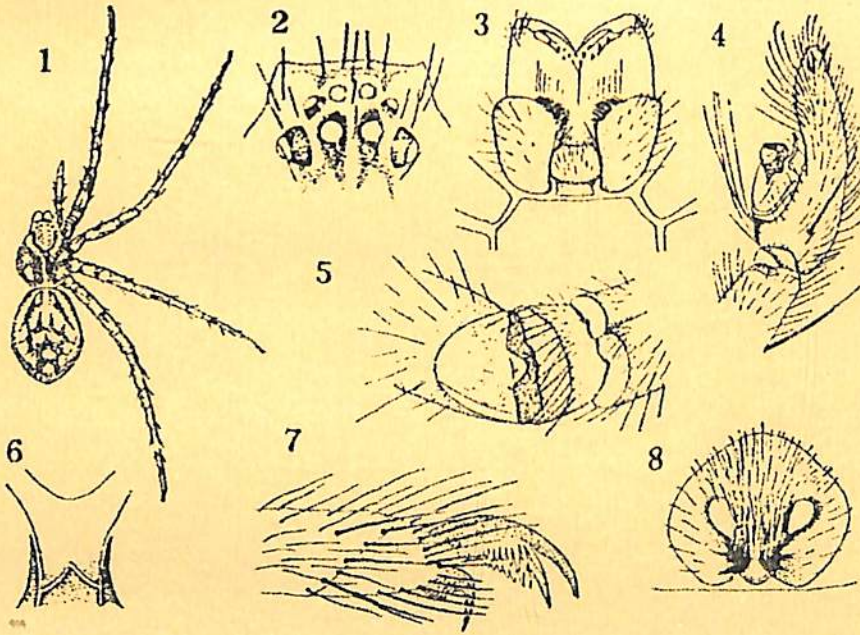


しのびぐも

第 13 号



*Cispius orientalis* VAGINUM

1985

三重クモ談話会

# しのびぐも

第13号

1985

---

シノビグモその後	八木 沼 健 夫	1
奈川村自然休養村のクモ	緒 方 裕 人	2
昭和60年度三重クモ談話会採集会報告	永 井 均 貝 発 憲 治	7

---

談話会図書	14
昭和60年度決算報告	15
会員名簿	16
お知らせ	17

---

三 重 ク モ 談 話 会

表 紙 説 明

*Cispius orientalis* YAGINUMA

シノビグモ (キシダグモ科)

1965年5月4日、三重県、三重大学平倉演習林（  
一志郡美杉村川上）にて、橋本理市氏採集。

新種として記載された。

図は、八木沼健夫氏の御厚意により、ACTA  
ARACHNOLOGICA Vol. 20 No. 2 より転写したも  
の。

1. Dorsal view (♀)
2. Eye area (♀)
3. Mouth part (♀)
4. Palp (♂)
5. Trochanter (♀)
6. Pedicel (♀)
7. Onychium and claws (♀)
8. Epigynum (♀)

# シノビグモその後

八木 沼 健 夫

シノビグモを暫定的な学名 *Cispius orientalis* のもとに発表したのが1967年であるが、爾来約20年たった今日、なお *Cispius* でよいかどうかの疑念が去らない。思い切って新属にした方がよかったかも知れないが、属は複数の概念であるとの私の見解からそれは許されず、一応近似の属においたのである。

命名規約上は有効とされても、分類学的に有効か、また系統上どの位置にあるものかなど悩んできた。

そこでPisauridaeの専門家である Lynchburg college (Virginia) の Mr. J. E. Carico に標本を送り研究を依頼した。しかし Carico も「初見のクモで見当がつかない。自分の見た限りのもので、この種に適合する属を知らない。本種に似た Rhoicinae に興味を持っている American museum の Dr. N. I. Platnick に見てもらっては」との返事。余分に持っていた♀♂をすでに Carico に送ってしまったので、タイプ標本の♀♂を Platnick に送った(返事を希望して)。しかし彼も、何に近いか、属名の正否は分らぬという。彼は直ちにシノビグモ近縁の Tharassinae の専門家である Hamburg museum の Dr. Petra Siewald (当時 Washington D.C. の Smithsonian Institute で研究中) に標本を転送された。その後、Siewald から標本を受取った旨の返事があり、同時に原記載を要望された。早速送ったが、まだ日が浅いので返事もらっていない。今年中にははっきりするものと思っている。どこからシノビグモで来たのか、まことに人さわがせなクモである。3人の専門家が見当がつかぬという難物である。

単に正しい属名を知るといよりは、ハシリグモ・キシダグモ・ロイキヌスなどの関連、生態上の事実からその系統上の正しい位置づけをしたいものである。

貝発憲治氏により生態の研究が進められていることは喜ばしい限りで、今までわかった生態の概要をかんたんに上記諸学者にも知らせてある。学名が安定した時に貝発氏により欧文で研究発表されることを願っている。

標本を寄贈下った貝発憲治氏に厚くお礼申し上げます。

〔参考〕 Pisauridae の Rhoicinae の南米産の2種は Lycoosidae 同様卵のうを腹部に保持することは報告されているが、子グモを腹背にのせるか否かはわかっていない。シノビグモの卵のう保持や子グモのまどいについては、貝発氏から発表があると思うので、ここにはふれない。

# 奈川村自然休養村のクモ

緒方清人

## はじめに

長野県南安曇郡奈川村は県のほぼ中央の西部に位置し、標高1407m で36°03' N、137°43'E である。

自然休養村は村営の別荘地で、数年前から分譲が始まり、敷地内に別荘やロッジが所々に建ち始めたところである。しかし、大部分は空き地である。筆者は仕事で25-VI-1985~30-VI-1985の6日間、6-VII-1985~10-VII-1985の5日間、合計11日間ここで滞在した。暇をみつけてはクモの観察に出掛けた。

## クモ観察記

別荘の裏側は沢になっており、ミズナラ、シラカバ等が林立し、林床はミヤコザサが密生していた。谷からは豊かな水音が聞かれ、日中でも薄暗く感じられた。ギンメッキゴミグモ、カラフトオニグモ、オオシロカネグモ等が樹枝葉間に円網を張っていた。その谷に下る途中のミヤコザサの葉上に1頭のコオニグモモドキが静止していた。私は約30分観察したが、本種の網らしいものは見ることができなかった。終始葉上に静止していたが、体長5~6ミリのあめ色のアリが近づいた。私は捕虫を期待したが、アリの触角が体に触れると同時にコオニグモモドキは4~5センチしおろ糸を垂らしてぶら下った。数秒後にはもとの葉上に戻ったが、またアリが近づき、同じような行動を4回繰り返した。私は滞在中に本種を6頭確認したが、全て網は認める事ができなかった。ミヤコザサの葉上の1頭も6月25日~7月10日までの16日間まったく一葉の上に静止したままであった。しかし、他の5頭中2頭はイネ科やウラボシ科の葉先より数センチぶら下っていた。内1頭はその姿勢で捕虫していた。私は焦りながらレンズを向けたので、多分それに警戒し、捕虫したままワラビの葉先に静止したまま動かなくなった。コオニグモモドキは円網を張るのだろうか、夜中に観察していないのが、今になり後悔している。

ツツジ科、ヤナギ科、イネ科等の茂る草地では、ミドリアシナガグモやキンカタハリオニグモを普通に観ることができた。キエビグモ、ツノオニグモも1頭ずつ観たし、シロスジシヨウジョウグモは4頭ほどイネ科の植物に小さな円網を張り中央に静止していた。中でもミドリアシナガグモは交接後雌雄は向い合い、しばらく牙と牙をからみ合っていた。また、エゾアシナガグモも交接し、ウロコアシナガグモはヤナギの葉裏で卵のうを守っていた。

道路沿いの路肩には、イタドリが茂り、丸い葉の中にムツボシオニグモが小さな円網を張り、中にひそんでいたし、ヒメジョオンの茎葉間にはシロタマヒ

メグモの不規則網を多く観た。中には交接中や卵のうを守っている個体、それに雌が雄を捕食している場面も出合った。また、この花にはフノジグモが静止していたが、3頭とも幼体らしく腹部は黄と黒の模様であった。ギボンヒメグモ、ホシミドリヒメグモ、タカユヒメグモ等美しいヒメグモ科も豊富であった。

別荘の外壁にはマミジロハエトリ、オオハエトリが徘徊し、地上ではアライトコモリグモ、ハリゲコモリグモ等を観た。

その他にもハエトリグモ科、カニグモ科、サラグモ科等を観た。ボカシミジグモは普通に観ることができ、内2個体ともアリを捕虫していた。

夜になると電灯の光に誘われて、多くの蛾の仲間が集まった。窓ガラスにへばりつく美しい蛾の翅に見とれていると、ツユグモが素早く走り過ぎる。その美しい黄緑色の色彩に想わずハッとしてしまう。また、部屋の畳の上をワシグモ科sp. フクログモ科sp. がぞろぞろと動き廻る。全て雄個体であった。

静かな森の中の一軒家で1人で寝泊りしたが、多くのクモが私を夢中にさせた。滞在中に確認したクモは11科39種、不明種3種である。

## 目 録

- |    |  |           |
|----|--|-----------|
|    | I. Theridiidae                                 | ヒメグモ科     |
| 1. | <i>Enoplognatha marginata</i> YAGINUMA         | シロタマヒメグモ  |
|    | 6♀ 2♂  |           |
| 2. | <i>Chryso punctifera</i> (YAGINUMA)            | ホシミドリヒメグモ |
|    | 1♀   |           |
| 3. | <i>Dipoena castrata</i> BOS. et STR.           | ボカシミジグモ   |
|    | 4  |           |
| 4. | <i>Theridion rapulum</i> YAGINUMA              | ギボンヒメグモ   |
|    | 1♀   |           |
| 5. | <i>T. takayense</i> SAITO                      | タカユヒメグモ   |
|    | 4♀   |           |
|    | II. Linyphiidae                                | サラグモ科     |
| 6. | <i>Linyphia oidedicata</i> (HELSDINGEN)        | ヘリジロサラグモ  |
|    | 1♀   |           |
| 7. | <i>Neolinyphia angulifera</i> (SCHENKEL)       | ハンモックサラグモ |
|    | 1♀   |           |
| 8. | <i>Prolinyphia longipedella</i> (BOS. et STR.) | アシナガサラグモ  |
|    | 1♀   |           |
| 9. | <i>P. marginata</i> (C. KOCH)                  | シロブチサラグモ  |

3♀ 1♂

III. Araneidae                      コガネグモ科

10. *Araniella* sp.                      ムツボシオニグモ  
4♀
11. ~~Ar.~~ *tsuno* YAGINUMA                      ツノオニグモ  
*Araneus*  
1♀
12. *Neoscona fuscocolorata* (BOS. et STR.)                      ヤミイロオニグモ  
1♀
13. *Hypsosinga sanguinea* (C. KOCH)                      シロスジショウジョウグモ  
4♀
14. *Pronous minutus* (SAITO)                      コオニグモモドキ  
6
15. *Zilla aurea* (SAITO)                      キンカタハリオニグモ  
7♀
16. *Z. sachalinensis* (SAITO)                      カラフトオニグモ  
1♀
17. *Cyclosa agenteoalba* BOS. et STR.                      ギンメッキゴミグモ  
5♀
18. *C. gimaga* YAGINUMA                      ギンナガゴミグモ  
1♀ 1♂
19. *Melleucauge yunohaniensis* BOS. et STR.                      メガネドヨウグモ  
1♀

IV. Tetragnathidae                      アシナガグモ科

20. *Leucauge magnifica* YAGINUMA                      オオシロカネグモ  
6♀
21. *Tetragnatha pinicola* L. KOCH                      ミドリアシナガグモ  
7♀ 1♂
22. *T. praedonia* L. KOCH                      アシナガグモ  
1♀
23. *T. squamata* KARSCH                      ウロコアシナガグモ  
1♀
24. *T. yesoensis* SAITO                      エゾアシナガグモ  
1♀ 1♂

V. Agelenidae                      ナオグモ科

25. *Agelena labyrinthica* (CLERCK)                      イナヅマクサグモ

- 1♂
26. *Coelotes corasides* (BOS. et STR.) ヤマヤチグモ  
2
- V. Lycosidae コモリグモ科
27. *Pardosa astrigera* L. KOCH ウツキコモリグモ  
3♀
28. *P. laura* KARSCH ハリゲコモリグモ  
1♂
29. *Trochosa ruricola* (DE GEER) アライトコモリグモ  
1♀
- VI. Thomisidae カニグモ科
30. *Synaema globosum japonicum* KARSCH フノジグモ  
3♀
31. *Tmarus rimosus* PAIK セマルトラフカニグモ  
1
32. *Xysticus croceus* FOX ヤミイロカニグモ  
1♂
- *Xysticus* sp. カニグモの一種  
1♀
- VIII. Philodromidae エビグモ科
33. *Philodromus flavidus* SAITO キエビグモ  
1♀
- IX. Salticidae ハエトリグモ科
34. *Evarcha albaria* (L. KOCH) マミジロハエトリ  
1♀
35. *Icius linea* (KARSCH) メガネアサヒハエトリ  
1♀
36. *Marpissa roemeri* STRAND オオハエトリ  
1♂
37. *Yaginmaella ususudi* (YAGINUMA) ウススジハエトリ  
1♂
38. *Phintella bifurcilinea* BOS. et STR. キアシハエトリ  
1♀
- X. Clubionidae フクログモ科
- *Clubiona* sp. フクログモの一種



## XI. Heteropodidae

アシダカグモ科

39. *Micram Micrammata roseum* (CLERCK) ツユグモ

26

## XII. Gnaphosidae

ワシグモ科

- Gnaphosidae sp. ワシグモの一種

16

## 参考文献

- 1) . 太田定浩・橋本理市・貝発憲治, 1984. 三重県産真正蜘蛛類. 三重生物第33号・34号抜刷: 2-18.
- 2) . 須賀英文, 1984. 真正蜘蛛類. 愛知の動物. 愛知文化シリーズ (3) : 41-61.
- 3) . 八木沼健夫, 1970. 日本の真正蜘蛛類相. 国立科学博物館研究報告, 13(4) : 639-701.
- 4) . 小野展嗣, 1975. 日光の真正蜘蛛類. *Atypus*, (64) : 7-22.
- 5) . 新海栄一・高野伸二, 1984. クモ. フィールド図鑑, 1-204. 東海大学出版会, 東京.
- 6) . 八木沼健夫, 1968. 原色日本蜘蛛類大図鑑 (増補改訂版), 1-168. 保育社, 大阪.

# 昭和60年度三重クモ談話会採集会報告

永井均・貝発憲治

## ○ 春の採集会

期 日 昭和60年 6月 9日 (日)

場 所 三重県亀山市石水溪〔C3623-3455〕

三重県亀山市野登山〔C3625-3455~C3625-3456〕

参加者 太田定浩・須賀瑛文・須賀和子・貝発憲治・永井均

### ・石水溪・野登山採集会に参加して (永井均)

1985年 6月 9日、梅雨さ中のことだから雨が降るのはしかたのないことかもしれないが、目的地について「さあ！」という時に降り出されるのはいささか出鼻をくじかれる。しかし、ここで中止しては遠路はるばるやってきたかいがない。かっぱを着て、あるいは傘をさし、雨についての採集会となった。

この日参加したのは、太田先生、貝発先生、須賀先生と奥さん、そして私の5人。場所は三重県亀山市石水溪。夏にはキャンプもできる景勝地だが、まだシーズン前でひっそりとしている。時折聞こえてくるかじかの鳴き声が、溪谷の初夏を告げているように思われた。

お昼近くになって雨が上がった。溪流沿いに広場を見つけておべんとうを広げる。その広場の一角に小さな池があって、池の上に張り出した木の枝にはモリアオガエルの卵囊があった。親ガエルもいた。皆、クモのことはしばらく忘れて、モリアオガエルの観察に熱中する。

昼食後は野登山の方へまわって採集を行った。石水溪でもそうだったが、オナガグモが特に目につく。卵囊をつるしている個体もあった。親グモは体をびんと伸ばし、第1脚と3脚で卵囊を下から抱えるように触れている。また、卵囊を守っているヤリグモも観察できたが、こちらの方は卵囊の近くにはいてもそれに触れてはいない。卵囊をつるしている不規則糸は他のクモの巣ではなく、自分でつくったもののようだ。(この向方のクモを卵囊ごと採集して持ち帰り木の枝に離れたところ、うまく不規則糸を引いて再び卵囊をつるした。感心したのは、多少傾いてはいても卵囊の上下を違えずにつるしたことである。オナガグモの卵囊は下の方が重そうだから上下が自然と正しい位置になっても不思議ではないが、ヤリグモの卵囊は逆に上の方が重そうだから、上下を逃えることなくつるしたことは、やはり不思議に思われる。子グモが卵囊の殻に脱出口をあける位置がおよそ決まっていることから、卵囊のつるされ方は子グモの脱出と何らかの関係があるのではないだろうか。)

午前中に雨が降ったということが響いたのか、今回は徘徊性のクモについてはあまり多くの種類を採集することができなかったが、特に残念に思ったのはシノビグモを見ることができなかったことである。貝発先生によれば、石水溪の付近では採集記録がないとのことである。シノビグモについてはまたの機会のお楽しみということにして、石水溪、野登山を後にした。



貝 永 須賀氏夫人  
 発 須 井 太  
 賀 賀 田

昼食後石水溪にて

・採集結果

(同定者：貝発憲治)

Ⅰ. ウズグモ科

1. カタハリウズグモ (石) ♀A 1. (野) ♂SA 1

Ⅱ. ユウレイグモ科

2. ユウレイグモ (石) ♀A 1. ♂A 1. (野) ♀A 1

Ⅲ. ヒメグモ科

3. ツリガネヒメグモ (野) ♀A 1

4. ヒメグモ (野) ♂SA 1. Y 1

5. オオヒメグモ (石) ♀A 1. Y 1. (野) ♀A 2.  
 ♂A 1. Y 1

6. アシブトヒメグモ (石) ♀A 2. Y 4. (野) ♀A 1

7. ホシミドリヒメグモ (石) ♀SA 2

8. ムラクモヒシガタグモ (野) ♀SA 1

9. パラギヒメグモ (石) ♂A 1. (野) ♀A 4

10. ムラクモヒシガタグモ (野) ♀SA 1
11. バラギヒメグモ (石) ♂A 1. (野) ♀A 4
12. キボシヒメグモ (野) ♀A 3
13. ムナボシヒメグモ (石) ♀SA 2. ♂A 2
14. コケヒメグモ (石) ♀A 1
15. タカユヒメグモ (石) ♀A 1
- IV. ホラヒメグモ科
16. コホラヒメグモ (野) ♀Y 3
- V. サラグモ科
17. テーニッツサラグモ (石) ♀A 1. (野) ♀A 1
18. チビサラグモ (野) ♀A 1. Y 1
19. クスミサラグモ (石) ♂A 1. (野) ♀A 3. ♂A 1
20. ツリサラグモ (石) ♀A 1. (野) ♀A 1
21. ムネグロサラグモ (石) ♀A 1. (野) ♀A 1
22. アシナガサラグモ (石) Y 1
23. ユノハマサラグモ (石) ♀A 1. (野) ♀A 2
24. ナナメケシグモ (石) ♀A 2
25. ハラジロムナキグモ (石) ♂SA 1
- VI. コツブグモ科
26. ナンプコツブグモ (野) ♂A 1
- VII. コガネグモ科
27. ムツボシオニグモ (野) ♀A 2. ♂SA 1
28. カラオニグモ (石) ♀A 1
29. ヤマシロオニグモ (石) ♀SA 1
30. サツマノミダマシ (石) Y 1. (野) Y 1
31. カラフトオニグモ (野) ♀A 2
32. ヤマトカナエグモ (野) ♀A 1
33. カラスゴミグモ (野) Y 1
34. ゴミグモ (石) ♀A 1
35. ヨツデゴミグモ (野) ♀A 1
36. タニマノドヨウグモ (野) ♀A 2. Y 1
37. メガネドヨウグモ (野) ♀A 1
- VIII. カラカラグモ科
38. ヤマジグモ (石) ♀A 1
- IX. アシナガグモ科

39. コシロカネグモ (石) ♂SA 1. Y 2. (野) ♂SA 1. Y 2
40. アシナガグモ (石) ♀A 1
41. ウロコアシナガグモ (石) ♂A 1. (野) ♀A 1. ♂A 1
- X. タナグモ科
42. コクサグモ (石) Y 5
- ヤチグモ属sp. (石) Y 1. (野) Y 1
- ナミハグモ属sp. (野) Y 1
- XI. キシダグモ科
43. アオグロハシリグモ (石) Y 3. (野) Y 1
44. イオウイロハシリグモ (野) Y 1
- XII. コモリグモ科
45. ヤマハリゲコモリグモ (野) ♀A 1
46. ハリゲコモリグモ (石) ♂A 1
47. キシベコモリグモ (石) ♀A 1
48. クラークコモリグモ (石) ♀A 5. Y 1. ♂SA 1. (野) Y 1
- XIII. ササグモ科
49. ササグモ (野) Y 1
- XIV. カニグモ科
50. コハナグモ (石) Y 3
51. ハナグモ (野) ♀SA 1. Y 1
52. キハダカニグモ (石) ♂A 1
53. ワカバグモ (野) Y 1
54. トラフカニグモ (野) ♂A 1
55. セマルトラフカニグモ (石) Y 2
56. ヤミイロカニグモ (野) ♀A 1
- XV. エビグモ科
57. アサヒエビグモ (石) ♀A 1. ♂A 1. Y 2
58. シャコグモ (野) ♀A 1
- XVI. ハエトリグモ科
59. ネコハエトリ (石) ♀A 1. (野) ♀A 2. ♂A 2
60. デーニッツハエトリ (野) ♀A 1
61. マガネアサヒハエトリ (石) Y 1. (野) Y 1
62. エキスハエトリ (石) ♀A 1
63. ヤサアリグモ (野) ♂A 2
64. カラスハエトリ (石) ♂A 1. (野) Y 1

65. ムツバハエトリ (石) ♀A 1
- XVI. フクログモ科
66. アシナガコマチグモ (石) ♂A 1
67. コフクログモ (野) ♀SA 2
68. ヤハズフクログモ (野) Y 1
69. ムナアカフクログモ (石) ♀SA 1
70. イタチグモ (石) Y 4. (野) Y 1
71. ウラシマグモ (石) ♀SA 2. ♂SA 1
- ・コマチグモ属sp. (石) ♀SA 1
- ・フクログモ属sp. (野) Y 2
- XVII. アシダカグモ科
72. コアシダカグモ (石) Y 2
- XVIII. シボグモ科
73. シボグモ (石) Y 2. (野) ♂A 1
- XIX. ワシグモ科
74. メキリグモ (石) ♀A 1
75. *Drassyllus* sp. (野) ♂A 1

以上、石水溪 17科40属49種  
野登山 18科42属50種

○ 初冬の採集会

期 日 昭和60年11月30日(土)～昭和60年12月1日(日)

場 所 三重県一志郡美杉村川上、平倉川流域〔C3614-3427〕  
三重県名張市長瀬丸山地区〔C3609-3435〕

参加者 太田定浩・須賀英文・庄司裕志・永井均・貝発憲治

・初めての宿泊採集会を催して (貝発憲治)

春の採集会の際、一泊して一度じっくりと採集会を行いたい、また、シノビグモやサラグモ類、ヤチグモ類の観察もしたいという話がもちあがり、今回の初冬の採集会が計画された。シノビグモの観察にとっては、落葉後でやりにくいのであるが、サラグモ類やヤチグモ類の採集も合わせてとなると降雪直前のこの時期しかない。

今回は、太田先生と私の他に、わざわざ岐阜から永井さん、名古屋から須賀先生、庄司先生に参加していただいた。

名張駅 5時集合であったので、学校を 1時に終えると家へとんで帰り、早々に車でかけたが、かけこみで到着できた。遠方の方々はさらに忙しい思いをされたことと思う。管理職である太田先生、須賀先生は、休日であってもほとんど自由に出来ないということであったが、須賀先生は問題が生じたら、すぐに帰られる覚悟で何とか都合をつけていただいた。太田先生は P T A 役員会をこなしてから参加であった。冬の 5時はもう真っ暗なので、とりあえず 1時間程かかって美杉村太郎生の民宿「クロソ」へ直行した。この民宿は、私が一年おきに生物部員をひきつけて夏の林間実習を行うときに利用させてもらっているところで、もう 15年近くのつきあいである。一年半ぶりて人なつっこいおばさんの笑顔がでむかえてくれた。盆地なので、既に最低気温が  $-10^{\circ}\text{C}$  にもなり、もう一週間もすれば雪が降るということである。車からおりると、いつのまにかすっかり寒くなっていた。一段落したあと、さっそく 3年前に作られた岩風呂で疲れをいやし、おばさんといろいろ話をしながら、自慢のみそ煮込み料理をいただいた。また、雑タケの漬物や、手製のコンニャク、ワラビ等の山採料理も大変おいしかった。

8時頃からクモの勉強会を行った。スライドを用いて、私は今までに観察したシノビグモの生態について説明した。永井さん、須賀先生にはいろいろなクモの素晴らしい生態写真をみせていただいた。その後、クモの標本をいくつか顕微鏡でみたり、写真集を回したりして、クモ談義に話がはずんだ。しかし、夜がふけると底冷えがして大変寒い。あすの朝は早いこともあって、12時にはお開きとし、皆、行火をかかえて床についた。

次の日は大変よい天気であった。朝食後、昨夜好評であったおばさん特製の漬物や山採料理を土産に買い、昼食のおにぎりを作ってもらって、8時30分に民宿をあとにした。まずは、本日予定のシノビグモの生息地である、美杉村川上の平倉川上流へと車をとばした。約40分で現地到着。須賀先生はさっそく専門のトタテグモ類の調査である。三重大学平倉演習林で許可を受けたあと、岩場の多い川を 500 m ぐらいさか登り、必ず生息している一地点にたどりついた。生息環境について概略を説明した後、すぐさま採集にとりかかったが、落葉が多いのと気温水温が低いのに閉口した。落葉をおしわけ、シフティングをやり、石をひっくり返したりして、10時半頃まで必死に捜したが、庄司先生と私が体長 3mm 程の越冬中の幼体をそれぞれ 2頭ずつ採集しただけで、成体は全くみつからなかった。このままでは申しわけないので、かつて採集したことのある、さらに 100 m 程上流の地点を捜したところ、やっとのことで成体 4頭が採れた。冬でもクモの動きはすばしこい。4人の方々に生きた成体を 1頭ずつ土産にしてもらえほっとした。私は飼育中のものと比較するため、幼体をも

らった。冷えきった手をさすりながら、日当りのよい川原を選んで11時頃から昼食にした。その後、1時間かかって名張市の長瀬丸山地区までもどった。この当りは、比奈知ダム周辺生物調査の際にサラグモ類やヤチグモ類を豊富に採集したところである。私は石や倒木をひっくり返してヤチグモ類、ナミハグモ類の採集に、他の方はリターをソフティングしてサラグモ類の採集に、それぞれ精を出した。サラグモ類は4人の方が研究するためもち帰ってもらった。頭初の予定が一応満たされたので、3時頃採集を終え、名張駅にて解散した。遠方の方々、本当にご苦労さまでした。

私の採集したヤチグモ類等は、その後、生態写真を撮ってみえる千回安之輔先生にすべてお送りしたが、結果をお教えたところ、カチドキナミハグモ、♂♀成体、ナミハグモsp. ♂成体、ヒメヤマヤチグモ、♂成体、アズマヤチグモ、♂成体、カメンヤチグモ、♂成体、であったので、ここに報告しておきます。4人の方々のサラグモ類については、結果がでたらまた別の機会に発表していただけると幸いです。



庄 貝  
水 太 須  
司 司 苑  
井 田 賀

民宿「クロソ」の玄関前にて



談話会図書 (文献目録)

- |      |  |           |
|------|--|-----------|
| 166. | 談話会通信 No.4 9   | 東京蜘蛛談話会   |
| 167. | 談話会通信 No.5 0   | 東京蜘蛛談話会   |
| 168. | A T Y P U S No.8 5   | 東亜蜘蛛学会    |
| 169. | ACTA ARACHNOLOGICA Vol. 32 No.2 1984   | 東亜蜘蛛学会    |
| 170. | ACTA ARACHNOLOGICA Vol. 33 No.1 1985   | 東亜蜘蛛学会    |
| 171. | ACTA ARACHNOLOGICA Vol. 33 No.2 1985   | 東亜蜘蛛学会    |
| 172. | 談話会通信 No.5 1   | 東京蜘蛛談話会   |
| 173. | K I S H I D A I A No.5 2   | 東京蜘蛛談話会   |
| 174. | K I S H I D A I A No.5 3   | 東京蜘蛛談話会   |
| 175. | 談話会通信 No.5 2   | 東京蜘蛛談話会   |
| 176. | Ecology and Behavior of the Giant Wood Spider<br>Nephila maculata (Fabricius) in New Guinea<br>[ by M. and B. Robinson ] | 宗林正人氏より寄贈 |
| 177. | A T Y P U S No.8 6   | 東亜蜘蛛学会    |
| 178. | 日本産真正蜘蛛類数種の分類学的検討 (クサグモ, スジ<br>プトハシリグモ, ムツボシオニグモとハナオニグモ, マメオ<br>ニグモ, マイコブクログモ, ヤマトガケジグモ)                                 | 八木沼健夫     |
| 179. | 談話会通信 No.5 3   | 東京蜘蛛談話会   |
| 180. | ACTA ARACHNOLOGICA Vol. 34 No.1 1985   | 東亜蜘蛛学会    |

◎談話会図書貸出し希望の方、機関誌バックナンバー御希望の方は、事務局までお申し込み下さい。

計 報

三重県のクモ類研究の先駆者として活躍された、山川要助氏は、昭和60年 3月30日、病気のため逝去されました。75歳でした。心からごめい福をお祈り申し上げます。

昭和60年度決算報告

<b>収入の部</b>	<b>74,150円</b>	
前年度繰越金	44,284	
会費	24,000	(1,000×24)
機関誌売上	5,000	
利子	866	
<b>支出の部</b>	<b>22,390円</b>	
機関誌第12号製本代	6,000	
機関誌第12号郵送代	7,200	
機関誌第13号紙代	6,470	
通信・事務費	2,720	
<b>残高</b>	<b>51,760円</b>	

上記の通り相違ありません

昭和61年 3月31日

会 計 員 発 憲 治

会費領収 (敬称略)

- (昭和58年度) 直居通泰
- (昭和59年度) 直居通泰。田中穂積
- (昭和60年度) 直居通泰。田中穂積。橋本理市。貝発憲治。松本誠治。  
市橋甫。八木沼健夫。新海栄一。大川親雄。千国安之輔。  
須賀英文。池田博明。緒方清人。永井均
- (昭和61年度) 直居通泰。市橋甫。新海栄一。須賀英文。池田博明。  
緒方清人
- (昭和62年度) 直居通泰

◎会費未納の方は、至急お納め下さい。原則として前納でお願いたします。

郵便振替

名古屋 8 - 3895

お知らせ

- (1)、係の者の転勤のたびに談話会の住所が変更になるのは大変不便であるとのことから、以後住所を次のように固定することになりました。正式には、5月に開かれる採集会兼総会にて決定される予定ですが、それまでに混乱をきたすおそれがあるため、あらかじめお知らせしておきます。

(本部) 〒510 三重県四日市市前田町23-3

☎ 0593-45-0167

太田定浩 方

(事務局〔会計、原稿受付を含む〕)

〒515 三重県松阪市久保町1843番地の157

☎ 0598-29-6427

貝発憲治 方

- (2)、例年、機関誌「しのびぐも」を年度末の3月に年一回発行しておりますが、投稿者にとっても編集者にとっても年間で最も忙しい時期であり、充分余裕をもって事にあたれないとの意見を多くききますので、来年度より機関誌の発行を9月に変更する予定です。これも総会で正式に決定することになりますが、次回発行までに半年しかありません。内容あるものにするため、皆様のより一層の御協力をお願いします。どしどし御投稿下さい。

## 編集後記

新緑の季節となり、陽気もよくなって、クモ類の活動もいよいよ活発になってきました。皆様の御協力を得て、本年度も無事機関誌発行をすることができました。ありがとうございました。八木沼先生、緒方さんから玉稿をいただきました。また、愛知、岐阜の方々の参加を得て採集会も充実したものができました。来年度もいろいろの方々に御指導をいただきながら、地道にすすんでいきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

しのびぐも 第13号 1985

昭和61年4月10日印刷

昭和61年4月20日発行

編集者 太田定浩・橋本理市・貝発憲治

発行者 太田定浩

発行所 三重クモ談話会

(本部) 〒510 三重県四日市市前田町23-3

太田定浩 方

(事務局) 〒515 三重県松阪市久保町1843番地の157

貝発憲治 方